



パウル・クレー 《リストから抹消》1933年  
パウル・クレー・センター、ベルン、リヴィア・クレー寄贈  
@Zentrum Paul Klee, Bern, Bildarchiv

東京学芸大学  
柿沼万里江氏（パウル・クレー・センター 研究員）講演会

故郷への亡命  
パウル・クレー晩年の創作とその芸術的／政治的意義

日時 2023年2月1日（水）15:00-17:00  
場所 S 202 教室（S棟 2階）

事前申し込み不要

スイスの首都ベルン出身、国籍上はドイツ人としてバウハウスで教鞭をとったパウル・クレーは、ナチによって「退廃芸術家」の烙印を押され、故郷スイスへの亡命を余儀なくされた。本講演では、アイロニカルな視点から社会的・政治的でアクチュアルな状況を克明に観察したクレーの晩年の創作とその芸術的／政治的な意義を解き明かす。

柿沼万里江さんプロフィール

上智大学で哲学、学習院大学とチューリヒ大学の大学院で美術史を専攻。チューリヒ大学に勤務後、2016年よりベルンのパウル・クレー・センター美術史専門研究員。専門はドイツ語圏の近現代美術史、特にパウル・クレー研究。近年は、芸術作品の由来、来歴の調査研究にも従事。パウル・クレーに関するドイツ語の著作多数。日本語での近著は、『日々はひとつの響き ヴァルザー＝クレー詩画集』：ローベルト・ヴァルザー詩／パウル・クレー画／柿沼万里江編／若林恵・松鶴功記訳、平凡社 2018年。

[問合せ] 若林 [wmegumi@u-gakugei.ac.jp](mailto:wmegumi@u-gakugei.ac.jp)（多文化共生教育）

科研費  
KAKENHI